ナラシ運転の仕方と上限回転数

納車後 3000kmまで

ナラシ中に守らなければならない4つのこと

ナラシは、距離ごとに上限回転数を守り、急に回転を上げず、ゆっくり上げていく運転を続けることです。

1 オーバーヒートは絶対に避ける

ナラシ中のオーバーヒートは、エンジンに大きなダメージを与えます。渋滞路、長時間のアイドリング、高速道路の巡航、夏場の高温には特に注意してください。

2 指定回転数を守る

上限回転数を必ず守ってください。レブリミッターは付いていません。回転計のない車両は、速度の上限を目安にしてください（スマートフォンのGPSアプリでも速度を確認できます）。回転の把握に自信がない方は、オプションのタコメーターをおすすめします。

3 始動時・エンジンブレーキ時の高回転に注意

始動時の空ぶかし、チョークやアイドリングの調整不備、エンジンブレーキでの減速で、意図せず高回転になってしまうことがあります。

4 通常のメンテナンスを続ける

初期点検、オイル交換、点検での入庫、増し締めを欠かさず続けてください。ボルト・ナット類は振動や熱で緩むため、増し締めはナラシ中だけでなく、常にメンテナンスの基本です。

0〜160km ①
上限 2000rpm／50km/h
急に回転を上げず、短い間隔でゆっくり上げていく

ゆっくり回転を上げる動作が、ピストンリングのナラシになります。高負荷・高回転、長時間のアイドリングは避けてください。

↓

160〜800km ②
上限 2500rpm／60km/h
高速道路はなるべく避け、下道で油温を見ながら距離を伸ばす

ナラシ中は高温になりやすいので、適時エンジンを冷やしながら走ってください。ほかの注意は①と同じです。

↓

800km：エンジン・ミッションオイル交換、トルク確認（必須）



走行距離が少なくても、新しいエンジンのオイルは写真のように汚れます。早めの交換を守ってください。ナラシ後は3000kmごとの交換を推奨しています。

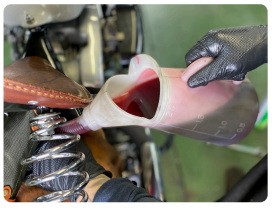
↓

800〜1600km ③
ナラシの第一段の区切り。日常的に使えますが、急なアクセル操作・続けての高回転・高負荷は避ける

高負荷になりやすい高速道路や、夏場の渋滞路でのオーバーヒートに注意してください。

↓

1600km：エンジン・ミッションオイル交換、トルク確認（必須）



エンジンとミッションの両方のオイルを必ず交換してください。初期点検では、オイル交換、全体の増し締め、点火系やキャブの調整などを行います。

↓

1600〜3000km ④
初期点検・定期点検に入庫しながら距離を伸ばす

↓

3000km：ナラシ完了

完了後も増し締めは随時続けてください。

【重要】エンジンの回転上限について

ショベル・パン・ナックルなどの旧式エンジンの回転上限は、4500〜5000rpm付近です。上限を超えると、バルブシールの傷み（オイル下がり）、ピストンリングの破損（オイル上がり）、シリンダーの傷などにつながります。
このような使い方でエンジンを破損した場合、S&Sの保証は適用されず、修理は自己負担となります。

メンテナンスについては、RODEOのオフィシャルサイトでも紹介しています。

© 2026 RODEO MANUFACTURING INC.　群馬県高崎市上並榎町454-1　http://www.rodeomotorcycle.com